

愛知万博20周年記念事業
愛・地球博20祭
公式
ハンディブック



おさんぽスタンプラリー付



愛知万博20周年記念事業実行委員会

開催概要

- **事業名** 愛知万博20周年記念事業
- **愛称** 愛・地球博20祭(あい・ちぎゅうはくはくにじゅっさい)
- **会期** 2025年3月25日(火)から2025年9月25日(木)までの185日間
※2005年日本国際博覧会(略称:愛知万博)と同じ会期
- **実施時間** 午前10時から午後5時まで(夏季はイベント内容に応じて別途設定)
- **実施会場** 愛・地球博記念公園(愛知県長久手市茨ヶ廻間乙1533-1)

事業のテーマ

- **メインテーマ** つなぐ未来(あした)へ
- **サブテーマ①** 愛知で、さがそう!遊ぼう!つながろう!
- **サブテーマ②** 語りあおう!つなげよう!自然の叡智

愛知万博のテーマ えいち 自然の叡智



環境への 気づかい

自然や環境に気がついた新しい生活の仕組みや行動が大切であることを伝えた。



国際交流・ 国際理解

地球に住むみんなが抱える問題の解決には、いろいろな考え方や方法があることを理解し、受け入れることが大切であることを伝えた。



市民参加

一人一人のいろいろな行動・活動が地球に住むみんなが抱える問題の解決にどれだけ大切か感じてもらった。



時代の 先をいく技術 (最先端技術)

時代の先をいく技術が、地球に住むみんなが抱える問題の解決にどのように役立つか実際に示し、体験してもらった。

目次

- おさんぽ スタンプラリー ————— p.3~p.10
- コミュニティガーデン「風の丘」 ————— p.11~p.14
- 地球の樹 ————— p.15~p.16
- 彩の回廊 ————— p.17~p.46
- 愛・地球博記念館「特別展示」 ————— p.47
- 手のひらタイムトラベル ————— p.48
- イベントカレンダー ————— p.49



モリゾー・キッコロと一緒に

おさんぽスタンプラリー

あそびかた

※定休日:毎週火曜日(祝日の場合は翌平日休み) 春夏休みは火曜日も開催

1 ラリーポイントの
展示を巡ろう

※①以外は、ポイント
を回る順番は自由です。

2 8つのポイントで
スタンプを集めよう

※④のスタンプ設置場所は
P12をチェック。
※⑧は受付に、他ポイントは
スタッフにお声掛けください。

3 スタンプ8個を集めて
ノベルティをもらおう

※①インフォメーションで
お渡しします。
※ノベルティの数には
限りがございます。

ラリーマップ



園内マップは
こちらから



①～③
の移動は、
国内バス(無料)
のご利用が便利です。

ラリーポイント

A コミュニティガーデン「風の丘」

📍地球市民交流センター屋上庭園

B 地球の樹

📍地球市民交流センター屋内広場

C 彩の回廊スポット① 階段

📍愛・地球博記念館周辺

D 愛・地球博記念館「特別展示」

📍愛・地球博記念館

E 彩の回廊スポット② 丘

📍愛知県児童総合センター前

F 彩の回廊スポット③ 噴水

📍西口広場



園内バス(無料)のご利用が便利です。
詳細は右記QRをご覧ください。

G 彩の回廊スポット④ 水小屋広場

📍親林楽園内

H 愛・地球博20祭 インフォメーション

📍青春の丘 エレベーター塔前

周辺のおすすめスポット

●★光小屋プロジェクト展示場所

企業と学生が共創してインスタレーション(空間演出)を行う産学連携プロジェクト。
詳しくはP43をチェック!

●愛知県児童総合センター

子どもから大人まで、からだをフル活用して遊べる大型児童館!

●グローバル・ループ

万博会場を一周してきた空中回路。いまは18mが残されています(何の数字が分かるかな?)。

●親林楽園

鳥のさえずり、木々の香りやこもれび。そこは五感で楽しむ森の楽園。

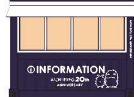
バスに乗ると
便利じゃの〜



園内バス時刻表



青色の
コンテナだよ



おさんぽ

スタンプラリー その①

台紙の有効期間
3/25(火)-4/20(日)

見どころ

愛・地球博20祭のシンボル
「地球の樹」を見に行こう！
(詳細はP15へ)



おさんぽ

スタンプラリー その②

台紙の有効期間
4/26(土)-5/25(日)

見どころ

光小屋では前期の展示が
スタート!そこは小宇宙!?
(展示期間:5月中旬から6月下旬まで)



おさんぽ

スタンプラリー その③

台紙の有効期間
5/31⑤-6/22⑤

見どころ
新緑の波に浮かぶ
「風の丘」のボートを
見に行こう！

START

A風の丘

B地球の樹

E丘

D特別展示

C階段

F噴水

西口広場

G水小屋

もりの学舎

GOAL

H七夕おめし景

ハンディックのご提示で大観覧車利用料金200円引き！

おさんぽ

スタンプラリー その④

台紙の有効期間
6/28⑤-7/20⑤

見どころ
光小屋の後期の展示がスタート！
愛知の山に思いをはせる。
(展示期間：7/13-9/20)

START

A風の丘

B地球の樹

E丘

D特別展示

C階段

F噴水

西口広場

G水小屋

もりの学舎

GOAL

H七夕おめし景

ハンディックのご提示で大観覧車利用料金200円引き！

おさんぽ

スタンプラリーその⑤

台紙の有効期間
7/26(土)~8/24(日)



見どころ

「ナイトファンタジー」開催中は、
「地球の樹」の下で星を作る
ワークショップに参加しよう!

START

A風の丘

B地球の樹

E丘

D特別展示

C階段

ハンディブックの
ご提示で大観覧車利用
料金200円引き!

F噴水

西口広場

もりの学舎

GOAL

H17ノメーション

G水小屋

おさんぽ

スタンプラリーその⑥

台紙の有効期間
8/30(土)~9/25(木)



見どころ

「風の丘」のパンバスタスが
愛・地球博20祭の
クライマックスを盛り上げる!

START

A風の丘

B地球の樹

E丘

D特別展示

C階段

ハンディブックの
ご提示で大観覧車利用
料金200円引き!

F噴水

西口広場

もりの学舎

GOAL

H17ノメーション

G水小屋

Community Garden 風の丘

～みんなで、屋上の草原を風を感じる庭にしていくプロジェクト～

街をみんなの“庭”にする試みが、この丘から、
Produced by 星が丘産学連携チーム(星が丘テラス/メイガ

風によって広がっていきますように
ーデンズ/船山女学園大学生活環境デザイン学科橋本雅好研究室+コトづくり研究所)



全体マップ

期間：通期

場所：地球市民交流センター屋上庭園

時が進み ちよっと遠くなった
人と自然との距離

「風の丘」は、そんな時を巻き戻して
人と自然の距離を縮める
みんなの「庭」になることを
願ってつくられた場所

風にあたる 風を感じる
そんなゆとりある時間や
自然のリズムを現代人に提供する丘

風の丘では市民や学生のみならずと
名古屋の“星が丘”の街で実践している
「コミュニティガーデン」
という市民参加型の取組を通じて
街の花や緑を増やすことで
“生き物の住処”を作ります

さあ、一緒に
“ちよっと風にあたりに”行きましょ
きっとあなたも
ずっとここにいたくなる



1 風に揺れる

みんなで宿根草
ナチュラルスティ
風の丘を彩りま

花壇

を主とした
ックガーデンをつくり
す。

風の丘への道

コミュニティガーデン「風の丘」へ
つながる道では、季節の花が迎えます。

4 草原の

草原を渡
風になび

船

る船は、季節の花や緑を運ぶ廃船。
く帆も草花で染まっています。

2 風みる丘

ふだん、風は感じるものと思っていますが、
この丘では、風をみることができます。
あなたには、どんな風がみえますか？

＼スタンプラリーポイントはこちら／

3 風使いの町

風を使う生きものが暮らす町。
鳥、くも、モモンガ。
もしかしたら妖精も？

詳細は次頁へ

① 風に揺れる花壇

風土に合ったロングライフで持続可能な宿根草花壇

この花壇は、名古屋市の星が丘にある「星が丘テラス」で8年続くオーガニックガーデニング年間講座の特別版“星のガーデナー講座 風の丘Class”の学びの場となっています

一般募集で集まった16人の受講者と共に人にも環境にも優しいガーデニングを通じて公園や緑地の新たな在り方を提案します

愛知県のたくさんの場所に宿根草の素敵な風景を増やすための仲間づくりの場でもあります



② 風みる丘 - 風ぐるま -


風と遊ぶ、風ぐるま

Playing, Windmill

普段、風を感じるモノと思っていますが
この丘は、風を“みて”楽しむ丘

四季の移ろいが生み出す風の変化に名前を付け親しんできた、日本の美しい習慣に思い色とりどりの「風ぐるま」によって四季の風を表現しました

展示期間中、季節によって花信風、薫風、白南風、青東風、萩風、金風と変化する“風とあそぶ、風ぐるま”をお楽しみください



花信風(かしんふう)	春、花の開花を知らせる風
薫風(くんふう)	初夏、若葉の香りを運ぶ風
白南風(しらほえ)	初夏、梅雨明けに吹く南寄りの風
青東風(あおこち)	夏、曇りつない晴天に吹き渡る東風
萩風(はぎかぜ)	秋、萩を揺らす風
金風(きんふう)	秋、稲穂を揺らす風

③ 風使いの町

生きものも、植物も、みんな風と共に暮らしている

風を使って、風と共に暮らしている生きものたち鳥、クモ、モモンガ、ムササビ
もしかしたら、妖精も？

ここは、そんな風と共に暮らす“風使い”たちの町風を使って暮らしている風景があちこちに

もしかしたら、“風使い”たちに出会えるかもしれません
そっと、覗いてみてください

各展示の詳細はこちら



スタンプは案内看板の近くに隠れているよ!

スタンプラリーポイントA

④ 草原の船

草原を渡る、季節の花や緑を運ぶ廃船

名古屋市千種区の東山動物園の中にある東山ポートハウスの手こぎボート(廃船)を大きなプランターとして再利用しています

風がボートいっぱい草花を揺らしたら出航の合図です!

思考は風、知識は帆、人類は船である
by オーガスタス・ウィリアム・ハレ(イタリアの歴史家)



地球の樹

みんなのおうちひとつのかぞく

愛・地球博で生まれた「一つの地球」という人々の意識、
その新しい芽は20年の時を経て大きく育っている。
さあ、再び「地球の樹」の下に集い、語り合おう。

長久手市在住の切り絵作家 酒井敦美氏の協力のもと、
自然光や映像を用いた「光の切り絵」という独自の方法で
大きな樹に見立てた地球のオブジェを中心に、
光・風・水など自然を感じられる空間を演出します。

期間：通期

場所：地球市民交流センター屋内広場

耳をすましてみて…
地球の樹からは
どんな音がするんだろう…

『地球はみんなのおうち
ひとつのかぞく』

大宇宙の目線で地球を見たとき、
地球は、私たちみんなのお家。
私たちは、ひとつのお家でくらす
家族なのだと感じます。

地球の樹の中に入
ってみよう！
どんな世界に
会えるかな？

地球の樹は、
生きとし生けるもの
みんなのおうち。
たくさん生きものたちが
共存してくれています。
あなたの部屋はどこかな？
モリゾー・キッコロは…？

地球の樹が根をはる
美しい大地にも
たくさん生命が輝きます。
この大地でどんな景色・時が
生まれるのでしょうか…

「水滴の実」は、
みんなで作りました！
美しい地球の象徴の水を表現
しています。

「地球の樹の葉」は、世界中からあつまった
一人一人の大切な光です！
ぜひご自身が描いた葉っぱを探してみてくださいね。
葉たちは時の変化で彩りますよ！

地球の樹のまわりは
美しい星々の森が
広がっています。

彩の回廊

「彩の歳時記」をテーマに、県内12大学、24の学生チームが集い、愛・地球博20祭の会期中、愛・地球博記念公園をインスタレーション(空間演出)により彩る展示イベントです。学生たちには、作品の制作にあたって2つの点を意識してもらいました。

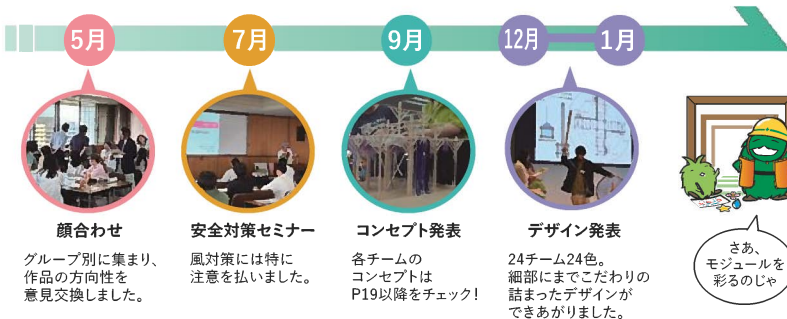
- ①見る人に季節の移ろいや自然の美しさを感じられる空間を楽しんでもらう
- ②愛知万博のテーマであった「自然の叡智」から学び、それを次世代へ受け継いでいく

園内4つの展示スポットに設置された大型のモジュールに、学生の創意工夫が詰まった個性豊かな作品が彩りを与えます。6つに分けた期間ごとに作品が入れ替わるので、花いっぱい春や日差しまぶしい夏など、季節ごとに違った表情を楽しむことができるのも魅力のひとつです。また、作品の中には、見るだけでなく触れて楽しむ仕掛けが施されたものもあり、訪れるたびに新たな体験が待っています。

185日間限定のこの特別な空間で、心躍る季節の旅に出かけてみませんか。

これまでの歩み

2024年5月以降、参加24チームの代表学生が一堂に会する「プロジェクトチーム会議」を定期的で開催してきました。デザインの方向性やモジュールの使い方などを大学の枠を超えて話し合い、みんなでよい展示にできるよう考えてきました。



展示スケジュール

期間	場所 ①階段 (愛・地球博記念館周辺)	②丘 (愛知県児童総合センター前)	③噴水 (西口広場)	④水小屋広場 (親林菜園内)
3/25~4/20	名古屋造形大学 伊藤ゼミ	名古屋芸術大学 コミュニケーション アートコース	名古屋市立大学 太幡研究室	金城学院大学 チームはるかぜ
4/26~5/25	愛知淑徳大学 清水ゼミチーム	名古屋造形大学 チームゾーゲーズ	中部大学 ちゅとらチーム	金城学院大学 みみんずく
5/31~6/22	名古屋大学 恒川研究室	名古屋美術大学 m.studio	愛知県立芸術大学 愛芸WORKS	愛知工業大学 チーム折り紙
6/28~7/20	名城大学 佐藤研究室チーム	名城大学 生田研究室チーム	名城大学 谷田研究室 サボテンチーム	愛知工業大学 野澤lab
7/26~8/24	愛知工業大学 宮崎・清水・今和泉 合同チーム	愛知県立芸術大学 チームおかげ	愛知県立芸術大学 噴水ズ	愛知工業大学 本のすみか
8/30~9/25	福山女子園大学 山下研究室	愛知県立芸術大学 県芸チーム	福山女子園大学 橋本雅好 研究室チーム	福山女子園大学 井澤研究室

コンセプトシートの見方



作品紹介は次頁へ

階段

山に花 再利用材が更新する長久手の風景



名古屋造形大学 伊藤ゼミ

【展示期間】3月25日(火)～4月20日(日)

【展示場所】愛・地球博記念館周辺



公園全体を見渡せるこの階段からは、長久手の森や山並みが広がる。ここに建つモジュールはその山並みをなぞるような造形で森全体を見渡すきっかけとなってほしいという思いで、「山」としてモジュール自体も設計提案し、実施案として採用された。

この「山に花」では、階段を行き来する途中に、普段とは違う位置にある花に注目すると、空を飛んでいるようなリネモ、大きな観覧車、公園にある植物や足元にある花々などの様々な風景に出会う。そしてその中に、春の訪れや愛知県の産業、愛知万博から受け継がれた技術や活動の痕跡も同時に見つけることができる。

この花々の風景は使われなくなった素材を活用しており、山の中で木漏れ日を見つけた先に何か見つけるようなものであったり、山の中にある湖を覗くような体験であったりが、配されたオブジェクトによって促される。自分だけの風景、発見をこの場所で見つけてほしい。

丘

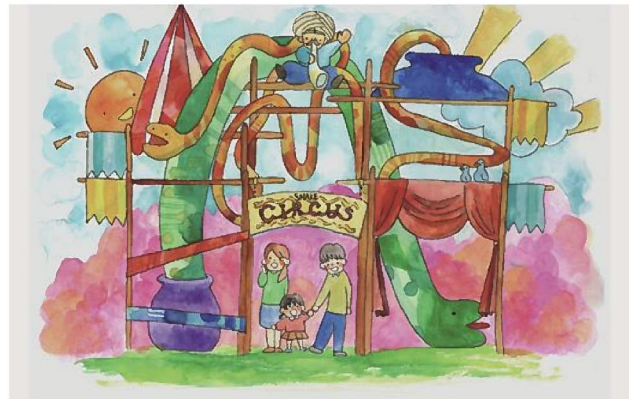
春のへびサーカス! 春の訪れを喜ぶ へびたちが公園でサーカスを練り広げます。



名古屋芸術大学 コミュニケーションアートコース

【展示期間】3月25日(火)～4月20日(日)

【展示場所】愛知県児童総合センター前



冬眠していた動物が動き出し、土の中で眠っていた植物の種が芽吹く季節として、春の訪れを祝うような作品を制作しようと考えた。

今年の干支である「へび」は古来より世界各国で縁起の良いものとされている。

モリコロパークに訪れた人や新しい生活を始める様々な人に幸せになってもらいたいという想いを込めた。

春の訪れを表現するために、「へび使いの笛の音で目覚めたへびたちがサーカス団となりモリコロパークに現れる。」というストーリーを設定した。

へび使いによって大きなつぼから飛び出した、大きすぎるへび、植物のツタのように巻き付くへび、ロープのような長すぎるへびなどがサーカスを盛り上げる。

鑑賞者にはサーカスを見に行った時の心躍る気持ちになってもらいたい。

制作のポイント

- 使用されなくなった洋服・カーテン・着物などの布製品を回収し再利用

噴水

透ける軸 織りなす春



名古屋市立大学 太幡研究室

【展示期間】3月25日(火)～4月20日(日)

【展示場所】西口広場



十字が持つ軸性をテーマとし十字の余白部分に布を垂らすことで、噴水からこの池を貫きジブリの大倉庫まで続く軸を顕在化させるデザインとなっている。また、布が重なり織りなす空間に鈴や花を飾るインスタレーションを施すことで展示期間である春を感じられる。

鈴を取り付けることが「自分の音を取り付ける」という体験に繋がりに参加できたり、布の重なりが変化をつくる作品であり、間に入って興行きを体験できたりするインスタレーションとなっている。視線や音の変化をいろいろな角度や場所から積極的に見て関わっていくことで楽しんでいただければ幸いである。

この作品を通して、軸への気づきと興行きの体感によって見え方の変化を体験するとともに、風で揺れ音が鳴る鈴と光を受けてきらめく花により季節を体感して欲しい。

作品の楽しみ方

- 好きな場所を選んで鈴を取り付けて自分の音を増やす
- 色々な角度から見て布の重なりや軸への気づきを体験する

水小屋

新しい世界に飛び込む人、 何かを変えようと一歩踏み出す人を勇気づける



金城学院大学 チームはるかぜ

【展示期間】3月25日(火)～4月20日(日)

【展示場所】親林楽園内



新年度が始まる時期、未知な環境で新たな生活を始める人や、今までと環境は変わらないが何か新しいことに挑戦しようと考えている人々に向け、エールを込めた作品。そんな人々の不安が吹き飛び、明るい気持ち・前向きな気持ちになるお手伝いができるようなデザインを考えた。それらを表現するために、布の一生をコンセプトにした。

一本の細い糸がコツコツと紡がれ布という大きなものになり、また新たな素材や衣服に生まれ変わるまでの過程を辿るストーリーは、成長や変化していく様子を表現している。

制作のポイント

- 凹凸感や光沢感などが異なる種類の布をいくつか使用することで、布だけで構成された空間でありながら、飽きのこないグラデーションが美しい場にした

作品の楽しみ方

- 布が春風によってなびくことで完成する形や影が瞬間に移り変わり、自然が描く一瞬のアートをモジュールの中まで入って楽しんでほしい



愛知淑徳大学 清水ゼミチーム

【展示期間】4月26日(土)～5月25日(日)

【展示場所】愛・地球博記念館周辺



5月は新緑の季節であり、風はやや強くなるが比較的晴れの多い安定した季節である。私たちは、強くなりつつある太陽の光や、桜などが散り新緑が芽吹き始めるところに夏の兆しを感じると考えた。そこで、新緑の若々しさとそこから差す木漏れ日を入り組んだ竹から差す光で表現し、竹を枝葉のように広げることで森の中に入り込むような体験ができるようにした。そのようにすることで「彩の歳時記」を、植物、自然の変化で表現できると考えた。

また、愛知万博の理念である「自然の叡智」から環境配慮と市民参加を考え、使用する竹の循環プロセスを組み、地域団体と協力して竹の調達を行った。この活動により協力をいただいた方やその周りの人に少しでも愛知万博に興味を持ってもらい足を運んでもらうきっかけ作りをしたと考えた。

制作のポイント

- 竹をふんだんに使用して木々に包まれているように表現
- 竹林を整備し竹を調達するところから行った

森のオーケストラ ～春を奏でる小鳥たち～



名古屋造形大学 チームゾーケーズ

【展示期間】4月26日(土)～5月25日(日)

【展示場所】愛知県児童総合センター前



春の到来を音で告げる鳥たちが物語の主人公だ。鳥たちが雛から巣立っていく中で、芽生え・出会い・刺激・迷い・旅立ちという5つの物語をモジュールを5つのエリアに分けることで表現した。

展示期間が春であることから、春に活動する鳥たちにフォーカスし、愛知県児童総合センターの近くでもあるため、雛と子供たちの成長を重ね合わせ、春の芽生えから新たな成長までの様子を表現した。5つのエリアを通じて鳥たちの成長と春の喜びを、それぞれの音で表現している。

また、愛知万博の理念である「自然の叡智」を踏まえて、作品の素材にリサイクル可能なものや、廃棄する予定だったものを多く使用した、人にも環境にも優しい作品になっている。様々な出来事によってつりゆく気持ちや心情を表現した作品の中で、赴くまみに体験し、体感し、自身の気持ちや心情を表現してもらいたい。

作品の楽しみ方

- 成長の過程で感じる気持ちや心情を表現した音が出る楽器が設置されているので、自由に演奏して楽しんでもらいたい

噴水

四季の瞬間を切り取る、 風鈴の音と共に



中部大学 ちゅとらチーム

【展示期間】4月26日(土)～5月25日(日)

【展示場所】西口広場



科学技術の進展目覚ましい昨今、未だ人が御せないものの一つに大自然がある。特に四季なんてものはその代表で、我々日本人はその変化に、ときには苦しめられつつも美しさを見出してきたのである。

今回の作品ではこの「四季」に焦点を当て、一周見て回るだけで個々の季節が織り成す風景に一年旅をしたような気分になれるような作品を制作した。

また、環境への配慮として風鈴には不要になった写真用フィルムを使用することでリサイクルの可能性について体感できるようになっている。

さらに、展示周辺でポラロイドを使った写真撮影を行うイベントも開催しているのでぜひお声がけいただきたい。

作品の楽しみ方

- 現像に失敗し不要となった写真フィルムを使用した風鈴
- 展示周辺でポラロイドでの写真撮影

水小屋

「拓く」 ～廃材で魅せる秘密の藤の花～



金城学院大学 みみんずく

【展示期間】4月26日(土)～5月25日(日)

【展示場所】親林楽園内



新生活が始まり少し経過したこの時期、大小違いはあれど不安や焦りを抱えている人がいる。作品には、そのような人たちの背中を押し、明るい未来へとつなげてほしいという思いが込められている。サブテーマの「拓く」という言葉には、「開く」にはないゼロからスタートするという意味がある。私たちの作品を見ることで抱えていた不安や焦りが和らぎ、新たなスタートを切るチャンスになると光栄である。

季節の花である藤の花と新緑を表現し、作品はあたかも歳時記の中に入ったかのような空間になっている。藤の花には学内から集めた古着やペットボトル、ベンチには大学の里山で採った竹を使用しており環境配慮にもこだわっている。

作品の楽しみ方

- 歩いて楽しむ藤の花エリア、リラックスして楽しむ新緑休憩エリアで構成されている
- 藤の花は1本1本異なる種類の布で作られていて細部まで楽しめる

階段

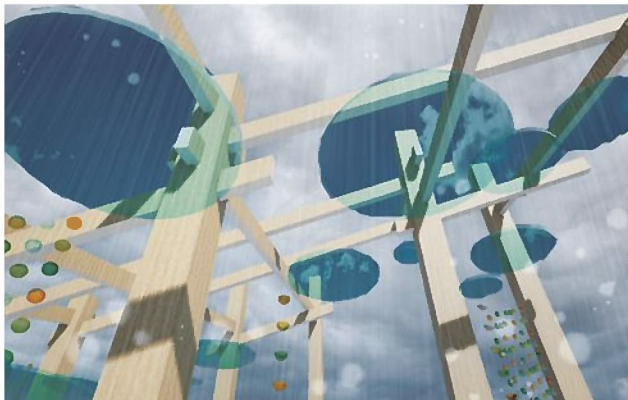
憂鬱な雨にも隠れた 自然の美しさを再発見!



名古屋大学 恒川研究室

【展示期間】5月31日(土)～6月22日(日)

【展示場所】愛・地球博記念館周辺



2005年愛知万博の瀬戸会場に設置された「天水皿^{II}」から着想を得て、梅雨の雨をより楽しく、美しく見せることを目指した。複数の円盤を吊るし、雨水が流れ落ちる様子を演出することで、自然が織りなす動的なインスタレーションを生み出す。円盤には再生プラスチックを使用し、水滴の反射を際立たせることで、光を受けるたびにキラキラと輝くように設計した。

再生プラスチックの採用は、環境負荷の軽減だけでなく、透明感や質感を活かし、水の美しさを強調する狙いがある。また、円盤の配置を工夫し、水が円盤の間を流れるような設計とした。この動きによって、単なる雨だけではなく、視覚的にも楽しめる空間を創出している。

雨の日も、まるでショーのような美しさを楽しめる。本作品を通じて、雨の風情や水の持つ魅力をより身近に感じてもらいたい。

丘

生活の中の原風景



名古屋葵大学 m.studio

【展示期間】5月31日(土)～6月22日(日)

【展示場所】愛知県児童総合センター前



私たちが日々の暮らしの中で忘れがちな自然とのつながりや、心の中に残る懐かしい景色を思い出し、自然とともにある生活の豊かさを再発見してもらえるような作品を考えた。

それら表現するための原風景として、雲海、草、天の川の3つを設定した。また、地域産業である尾州織物を使用した。

理由として、雲海、草、天の川と言ったエリアごとに独自の体験ができるだけでなく、視覚的な美しさとともに尾州の伝統や素材の良さを感じてもらえると思ったからである。

制作のポイント

- スケールの横断
- 尾州織物の使用

噴水

噴水洗トイレでクスッと、 あなたの笑顔の彩りを!ちなみに使用はできません(;、;)



愛知県立芸術大学 愛芸WORKS

【展示期間】5月31日(土)~6月22日(日)

【展示場所】西口広場



噴水、噴水のある場所には人々は集う。遊び場、待ち合わせ場所など噴水はたくさんの人々をつなぐ存在である。トイレ、トイレも人々が集う場所に欠かせない。個室に入っても、そこには同じトイレがあるのだ。噴水とトイレ、2つは全く違うように見えて、実は人々がつながりを持つ似た存在である。

今回、私たちは穴を開けた8個の便器を噴水に設置し、噴水に見立てた全く新しいインスタレーションを制作した。”トイレを噴水にする”一見すると子供っぽく、バカバカしく思われそうなアイデアだが、その実現のためにさまざまな人たちが積極的に協力してくれた。まさに、この作品が完成した事実そのものが、人と人との繋がりが、愛知県に住む人々のパワーのたしかさを裏付けている。五月病を吹き飛ばし、生活を輝かせる”彩り”は案外そんな、子供のような発想にあると私たちは信じている。

制作のポイント

- 使用する便器は、地元企業から製造過程で出たエラー品を提供していただき、リユースした

水小屋

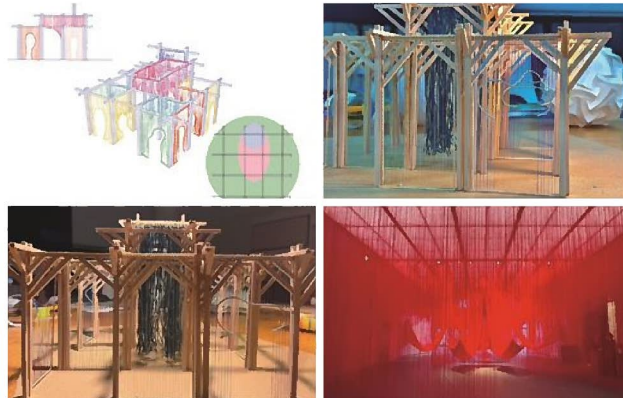
視覚で梅雨を感じ取り、 人々はまるでカタツムリのように作品に入り込む



愛知工業大学 チーム折り紙

【展示期間】5月31日(土)~6月22日(日)

【展示場所】親林楽園内



我々が担当する展示期間が梅雨の時期であることから着想を得た”カタツムリ”。カタツムリは緩やかで慎重な動きから、マイペースな印象を人々に与える生き物。この作品を通してカタツムリになりきることで、焦らずに生きることや個々が持つペースの大切さを感じてほしい。

制作のポイント

- 水色の糸を枠に張って、梅雨の雨だれを表現。この雨だれの重なり具合によって見える雨の強さが変わるように設計
- モジュールの中心には無数の糸を垂らすことで雨をくぐるかのような体験ができるようになってい。ここで使う糸は枠に使用している糸の素材とは違い、お互いが絡まりにくい素材を選んでいる

作品の楽しみ方

- 糸が作り出す色々な景色を探すうちに自然と足運びがゆっくりとなり、カタツムリのように作品を練り歩く、そんな楽しみ方をしていたきたい

階段

風抜ける洞窟



名城大学 佐藤研究室チーム

【展示期間】6月28日(土)~7月20日(日)

【展示場所】愛・地球博記念館周辺



長雨の季節に入り、山々の緑は一層深みを増していく。その晴れ間に吹く風は、夏の気配を感じさせる。我々は、この情景を、階段にいくつかの大きな布をかけることによって表現した。

布は洞窟のように人々を迎え入れ、雲のように頭上を包み込み影を落とす。また、布の高さや重なり方の違いにより、躍動感のある多様な空間を生み出した。さらに、階段を降りる際には、上から垂れる布がアイストップとなり、遠くに見える丘や芝、太陽の光や風の動きなど人々に身近な自然を意識させるような空間へと誘導する。階段の上りと下りで、感じる印象が異なるため、ぜひ、両側からの体験を楽しんでもらいたい。

また、布は天然繊維を使用し、草木染めを行った。20周年を迎えた愛知万博の理念「自然の叡智」を継承し、資源の循環を表現しつつ、自然の美しさも表現する布を目指した。

丘

見えていて、見えていない世界



名城大学 生田研究室チーム

【展示期間】6月28日(土)~7月20日(日)

【展示場所】愛知県児童総合センター前



現代では、スマートフォンやパソコンなどの機械をつかって画面越しに世界を見て知ることが当たり前になり、画面の外に広がる豊かさとの距離が開いているように感じる。

だからこそ、画面から一方的に受け取るだけでなく、自らの体を動かして能動的に見えてくるものを探ることで画面を見ているだけでは見えてこない豊かさに目を向けるような作品を考えた。

鏡面に映りこむ像に対して、体験者が自ら能動的に動きまわることで、鏡面に映り込む像が変化する体験。

像が移り変わる中で、芝生が見えたり、空が映りこんだり、周囲の人が映り込んできたりする体験によって、一方的に画面から受け取るだけでは見えてこないものを追い求める作品となっている。

作品の楽しみ方

- 鏡の反射によって周囲の景色が様々な見え方で見えてくる作品なので、鏡に映るものに意識を向けて散策してほしい

噴水

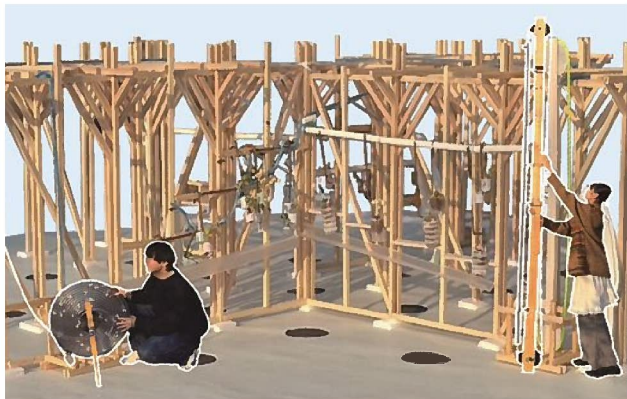
ぐるぐる巡る「水」と自然の循環 ～装置を動かして様々な循環をつくりだそう！～



名城大学 谷田研究室サポテンチーム

【展示期間】6月28日(土)～7月20日(日)

【展示場所】西口広場



私たちは今回のプロジェクトを、「社会問題を身近に感じるための手段」の探求と捉えた。展示期間は梅雨の時期であり展示場所が噴水であることから、季節のキーワードを「水」とし、愛知万博の「自然の叡智」の理念の中でも特に「循環型社会」に着目し、サブテーマを「水」×「循環」とした。

訪れた人に、地球の循環について五感で楽しみながら考えてみてほしいという思いから、実際に仕掛けを動かせる体験型のインスタレーションとした。四種類の仕掛けと、「ロープポンプ」と「かたつむりポンプ」による水の循環を中心として、植物の循環、資源の循環、そして人の循環を「見える化」した。インスタレーションの中で、水の流れや音、植物の成長、資源を活用している様子を通して、訪れた人に社会問題をできるだけ身近に感じてもらい、ワクワクしながら参加・体験してほしい。

制作のポイント

- みんなが楽しめる体験型インスタレーション
- 循環を生み出す手づくりポンプと4つの仕掛け

作品の楽しみ方

- 実際にポンプを動かしてみよう！

水小屋

竹に触れ、耳を傾けることで 新たな竹の一面に出会う



愛知工業大学 野澤lab

【展示期間】6月28日(土)～7月20日(日)

【展示場所】親林楽園内



テーマは「風に揺れる竹の音」。

このテーマにした理由は、竹を使ったサウンド・インスタレーションを通じて、普段意識することの少ない自然の音や空間の魅力をもっと体感してもらいたいと考えたからだ。風が吹くと、竹や周囲の木々がさまざまな音を生み出す。それが重なることで、新しい調和が生まれる。この作品を通じて、ただ歩いて通りすぎるだけでなく、空間の中で立ち止まり耳を澄まし、自然の音に包まれるひとときを楽しんでいただけたらと考えた。

制作のポイント

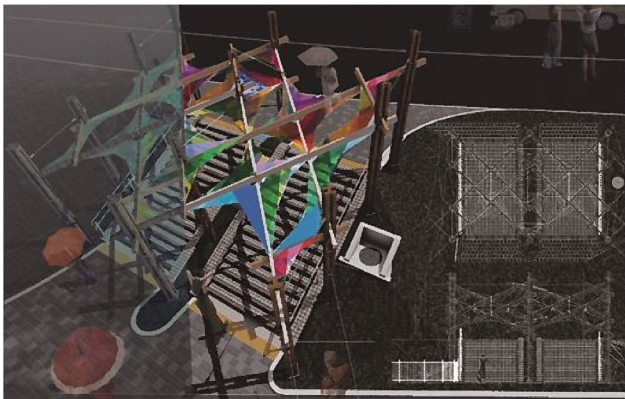
- 間伐された竹を使用
- 竹がぶつかり合うことで感じる聴覚効果
- 竹の長さを変えることで吊り下げられている竹に変化を持たせ、視覚的にも楽しめる



愛知工業大学 宮崎・清水・今和泉合同チーム

【展示期間】7月26日(土)～8月24日(日)

【展示場所】愛・地球博記念館周辺



今回のテーマは、「青葉闇の階(きざはし)」である。展示期間である7月下旬から8月は、大暑から立秋にかかる最も暑い時期となる。そこで、駐車場から愛・地球博記念館に至る動線である階段において、訪れる方々に私たちが創り出す青葉闇の涼感体験を提供する。

青葉闇とは、木々が茂り、その木陰が暗くなる様を表す夏の季語である。

紫外線によって反応する「フォトクロミック塗料」を使用した4層の農業用ビニールフィルムの色が変化し、地面に落ちる影が階段を彩り青葉闇を表現する。フィルムを変形させながら重ねることでより複雑な図柄が生まれ、微細な色の変化が起こる。

きざはしを通過する人々は、歩を進めるごとに彩り豊かな変化を体験することができる。この技術を駆使したインスタレーション展示を、涼しさを感じながら楽しんでいただきたい。



愛知県立芸術大学 チームおかげ

【展示期間】7月26日(土)～8月24日(日)

【展示場所】愛知県児童総合センター前



モリコロパークに息づく四季の美しさや、自然素材の魅力を感じてほしいと考え、本作品を制作した。本作品は、鑑賞者が内部に入って降り注ぐ光や竹の温もりを感じ、くつろぎながら交流できる憩いの場となることを目指している。デザインにおいては、鑑賞者に安らぎや安心感を与えるため、モジュールの上部に青竹を半球状に飾り付けた有機的な形を取り入れた。球は角のない形であるため、落ち着き、安心感といった印象を与えられ、「自然の憩い場」という私達のコンセプトに沿うのではないかと考えた。

また、球体をベースとしながらある程度ランダムに竹材を組むことで、外部の自然と呼应し、調和する形態を目指した。素材には夏の季語でもある青竹を使用し、夏らしさや、涼しげな印象を表現した。

ぜひ内部に入り、編み目の隙間から溢れる光や風の心地よさを感じてほしい。

制作のポイント

- 竹林整備を兼ね、大学内の竹林から採取した竹を使用

噴水

ぶかびかのすみか



愛知県立芸術大学 噴水ズ

【展示期間】7月26日(土)～8月24日(日)

【展示場所】西口広場



子供の遊び場である噴水に、真夏の燦々とした光を利用して普段とは違う現象/影を表現するために今回の作品を作った。愛知万博から20年、この公園で遊んだ子供たちは様々なできごとを経て成長しているだろう。その成長の多様さや複雑な過程に、夏の季語でもあるクラゲの特異な生態に絡めてオブジェを制作した。

制作のポイント / 作品の楽しみ方

- クラゲの発光する習性をもとに、屋には見えない蓄光絵の具で描写を施し、夜にメッセージを発信する
- クラゲがおりなす光と影の模様をさまざまな形で楽しんでほしい

※夜間の鑑賞ができるのは、ナイトファンタジー期間中のみ(P49参照)

水小屋

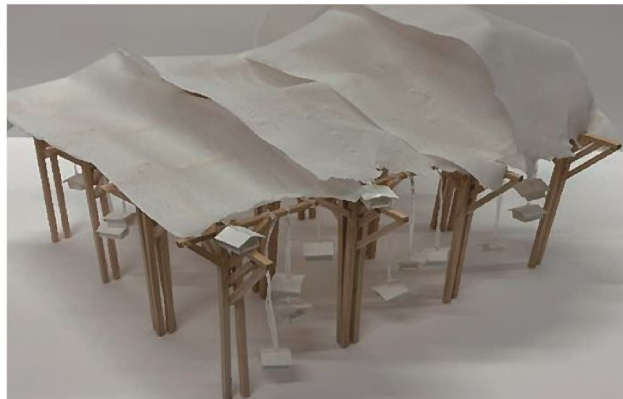
本と人々との間の 結節点となるような居場所を作る。



愛知工業大学 本のすみか

【展示期間】7月26日(土)～8月24日(日)

【展示場所】親林楽園内



皆さんは本を読んでいるだろうか。本は素晴らしいものである。散歩しながら読んだり、木陰で寝そべて読んだり、どんな場所でも心の拠り所となる。愛・地球博記念公園に訪れた人、昼食の後に休憩している人、そんな人たちが、この水小屋広場で風や太陽の光など自然の要素に包まれながら、日々の多忙な生活を忘れ、心を休められる場となることを願い、このテーマを考えた。

ここでは、静かにページをめくる心地よさや、木々のざわめきと本の世界が響き合う贅沢な時間を楽しめる。本を通じて自然と対話し、新たな視点や発想を得る場となることを期待している。

木漏れ日の下でお気に入りの一冊を開けば、鳥のさえずりが遠くから聞こえ、そよ風がページを優しくめくってくれる。そんな穏やかなひとときを、訪れるすべての人に届けたいと考えている。

制作のポイント

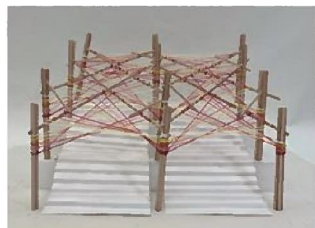
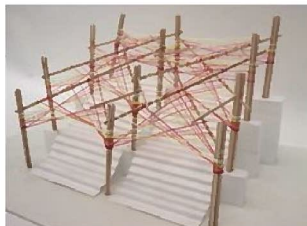
- レース生地を重ね合わせることで生まれる木漏れ日のような空間



梶山女学園大学 山下研究室

【展示期間】8月30日(土)~9月25日(木)

【展示場所】愛・地球博記念館周辺



愛知万博20周年記念事業「愛・地球博20祭」のメインテーマである「つなぐ 未来へ」に合わせて、一続きの糸で装飾を構成した。

廃棄食材を使用して、糸を暖色に染めあげ、秋の空を表現する。

また、名古屋の方言である「でら」(とても)を使い、「やあ」「やん」(語尾)と「yarn」(糸)をかけたタイトルとした。

まだ使える物がないかを見つめ直し、捨てられるはずだったものに新たな命を吹き込むことで、地球環境への配慮を形にし、食材としての役目を終えた後も、美しい色となって私たちの暮らしを彩るそんな循環の可能性を感じてもらえたらと思う。

制作のポイント

- 廃棄食材で染め上げた糸
- 秋の空を表現した暖色のグラデーション



愛知県立芸術大学 県芸チーム

【展示期間】8月30日(土)~9月25日(木)

【展示場所】愛知県児童総合センター前



豊かな自然あふれる長久手市や、この愛・地球博記念公園を象徴するような作品を作りたいという思いから、愛・地球博記念公園を吹き抜ける一陣の風を表現した。

美しい彩りに染められた落ち葉たちが織りなす、躍動的でありながらもどこかゆったりとした華やかな空間からは、夏から秋へ、季節のうつろいを先取りする彩の風を感じることができらう。

制作には、当公園と同じ植生の県芸大の森の落ち葉を使用している。

近づいてみたり、潜り抜けてみたり、光を楽しんだり。それぞれの楽しみ方でこの風を感じ取っていただけたら嬉しい。

噴水

たくさんの彩月を眺めながら、
噴水と戯れながら、これから訪れる秋をみんなで楽しむ。



梶山女学園大学 梶本雅好研究室チーム

【展示期間】8月30日(土)~9月25日(木)

【展示場所】西口広場



夏の暑さがやわらぎ始める9月に、子どもたちが遊び、家族や友人が心温まる時間を過ごせる場所を作りたいという想いから取り組んだ。

彩月(いろどりつき)を象徴する色々な月をモジュールに施し、視覚的な楽しさを演出している。また、木製パレットを活用した居場所を設けることで、噴水と戯れたり、景色を眺めたりできる空間を目指した。心が弾むような楽しさと穏やかさを兼ね備えたデザインにしている。

制作のポイント

- 木製パレットを再利用して凹凸のある遊び場や居場所にする
- ワークショップで作ったたくさんの彩月を飾る

水小屋

再利用・再使用した材料から生まれる
美しさを感じさせる



梶山女学園大学 井澤研究室

【展示期間】8月30日(土)~9月25日(木)

【展示場所】親林楽園内



9月頃を二十四節気で「白露」といい、露の美しさは花や宝石にたとえられる。その自然のきらびやかな美しさをCDを用いて美しく表現し、見て楽しめる空間を演出する。

また、この場所は I-G-2号窯跡があり、かつてこの三ヶ峯丘陵一帯では古代から中世にかけて窯業生産が盛んであった。穴窯という種類の窯が3基あったことから、この窯の存在もインスタレーションに反映させ、この素晴らしい歴史を来場者に知ってもらうきっかけにしたい。

制作のポイント

- 不要になったCDの使用
- 再生材料を活かし、森の中に浮かぶ宝石をイメージ

「彩の回廊」特別企画

光小屋プロジェクト

コンセプト

愛・地球博記念公園の南に広がる親林楽園の中にも「光小屋」を活用し、「彩の回廊」の特別企画として、企業と学生が共創してインスタレーション（空間演出）を行う産学連携プロジェクトです。

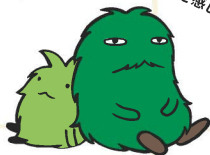
「彩の回廊」参加学生の中から有志で募った学生が前期・後期に分かれ、それぞれの連携企業とともに、愛知の山や森、林業の現場や工場を実際に訪れながら、愛知の木の魅力や企業の自然に対する向き合い方を学び、自然とともに生きる人々の生業（なりわい）について考えを深めました。そうして得た知見と「光小屋」そのものから感じ取るインスピレーションを融合し、学生と企業が生み出した、ここにしかないインスタレーションが展示されます。

20年の時を経て、自然と人の想いが重なり合う、唯一無二の空間があなたを待っています！

光小屋とは

2005年愛知万博当時、太陽の恵みである光のおかげで、地球上の総ての生命体が生きていることを体感できるドームとして建てられ、当時は「葉っぱのドーム」と呼ばれていた。「光小屋」と名称を変え、現在も万博当時のままの形で残されている。

地球の息吹を感じるの？



光小屋のコンセプト

太陽の恵みを得て、植物は光合成をして酸素を出し、動物は呼吸し、地球上の全ての生命体は生きている。命と光の関係を、緑の葉におおわれたドームで象徴的に表現する。球形は緑豊かな地球をイメージしたもので、中に入ると緑が逆光に映えて見える。



2005年
愛知万博当時の「葉っぱのドーム」



2025年
現在の「光小屋」



展示スケジュール

前期 5月中旬から6月下旬まで
連携企業：株式会社アーティストリ

後期 7月13日(日)から9月20日(土)まで
連携企業：株式会社良品計画



詳細は次頁へ

「宇宙小屋」で地球の生命と太陽や惑星の関係、自然のつながりを表現



【チーム名】チームアーティストリー
 【展示期間】5月中旬から6月下旬まで



今回のプロジェクトを通して「光小屋」をアップデートした「宇宙小屋」をデザインした。

愛知万博から20年経ち、急速に変化していく世の中で生きる私たちは、概念やモノのとらえ方もアップデートしていく必要があると考えた。

現在の光小屋のコンセプトは「命と光の関係の象徴」だが、今回制作する作品を設置することで既存のコンセプトを広く再解釈し、「地球の生命と太陽、惑星の関係」を表現する。

木材とフォレストバンクというマテリアルを使用し、色とりどりの惑星、自然のつながりを表現したスツールとテーブルを制作する。

制作のポイント

- 複雑な3D曲面加工が可能な5軸CNCを使用して制作
- 注目のデザイナー 狩野佑真氏が開発したマテリアル「フォレストバンク」を使用
- フォレストバンクに使用する木々は、学生自身が瀬戸会場であった海上の森に足を運び拾い集めたものを使用

生命に光が必要なこと、木も私たちと同じ生命だということを体感してもらう



【チーム名】光による生命の成長
 【展示期間】7月13日(日)～9月20日(土)



植物は太陽の光のエネルギーを受けて光合成を行い、成長する。種から芽を出し、やがて大きな木へと育つその姿は、人間の成長とも重なる。人はその木を材料としてさまざまなものを創造し、生活に取り入れてきた。

私たちもまた、光を浴びて生きる生物の一つ。木々の隙間から差し込む太陽の光を感じながら、この「光小屋」を通り抜けることで、まるで自分自身が植物になったかのような感覚を味わってほしい。

植物も人間も、成長の鍵となるのは「光」という共通の要素である。

このつながりを通じて、山や自然もまた私たちと同じ生命体であることを実感し、その課題を自分ごととして捉えるきっかけにしてもらいたい。

愛・地球博記念館

特別展示

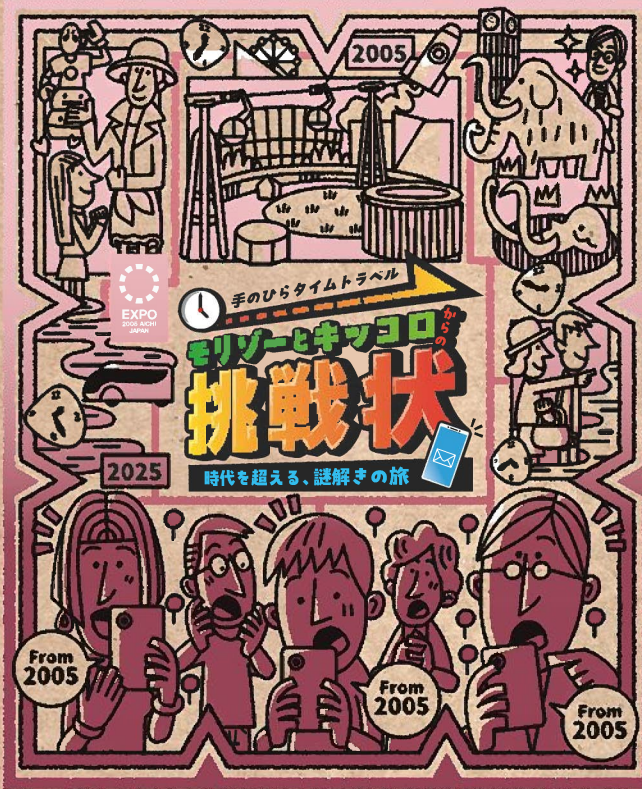
展示期間：通期 展示場所：愛・地球博記念館



愛・地球博記念館では、愛知万博を知らない世代が増える中で、愛知万博の意義や成果を再認識してもらうことにより、未来を担う若者たちにその成果や理念をつなげていくことを目的に愛知万博を振り返る特別展示を行います。特別展示は、これまでの展示物を大幅に入れ替え、画像や映像を用いて、子どもたちが楽しく学べる展示となっています。



20年前のぼくたちに
会いに来てね！



開催期間

3月25日(火) ▶ 9月25日(木)

定休日：毎週火曜日(祝日の場合は翌平日休み)
春要休日は火曜日も開催

開催時間

9:00～17:30

※17:30入場受取終了

詳細は
こちらを
チェック！

開催場所

愛・地球博記念公園内



初級・中級・上級の
3コースから
選べる！



参加
無料

主催 愛知万博 20 周年記念事業実行委員会

企画・制作

タカララッシュ! Hunter's Village

イベントカレンダー

※黒文字:平日、青文字:土曜日
赤文字:日曜日・祝日

3・4月		5月	
3/25 オープニング セレモニー	4/19 愛・地球リレー シンポジウム①	4/26~5/6 遊びと学びの 体験フィールド	5/10, 11, 17, 18, 24, 25 集まれ! あいちの魅力博。
3/25~30, 4/5, 6 フラワーピクニック			

6月	7月
6/7, 8, 11~15 全員集合! 地球まもり隊	7/5, 6, 12, 13 地球大交流フェスタ

8月		9月	
8/2, 3, 9~11, 16, 17 エンジョイサマー ナイトファンタジー	8/23, 24, 30, 31 エンジョイサマー	9/13~25 サステナブル芸術祭	
8/1~3, 8~10 地球を愛する 学園祭	8/11 愛・地球リレー シンポジウム②	8/22~24, 29~31 地球を愛する 学園祭	9/13 愛・地球リレー シンポジウム③
		9/23 名古屋フィルハーモニー 交響楽団コンサート	

イベント詳細は
こちらをチェック



公式HP



公式Instagram



公式X

愛・地球博20祭に参加して感じたことを自由に書こう



Vertical writing area with a decorative border of green leaves and flowers. The border features small green characters and a Ferris wheel. The writing area consists of horizontal dotted lines for text entry.